

「校長室から」

## ようこそ みくまの支援学校へ!!

本校ホームページにおいでいただき、ありがとうございます。

和歌山県立みくまの支援学校は、三重県と奈良県に隣接する和歌山県新宮市に平成2年4月1日に開校し、本年度28年目を迎えました。本校は、知的障害や肢体不自由のある児童生徒が学ぶ特別支援学校で、小学部・中学部・高等部が設置されています。

さて、本校が位置する新宮市を含む紀伊半島南部は、熊野地方と呼ばれています。中世より「熊野詣（くまのもうで）」の聖地とされ、市内には熊野速玉大社、隣接する田辺市本宮町には熊野本宮大社、那智勝浦町には熊野那智大社が1500年以上前から鎮座しています。これら3社と那智山青岸渡寺は「熊野三山」と言われ、当地方では、このことを指して、「三熊野」、つまり「みくまの」という言葉が使われています。

本校の名称は、公募により決定しましたが、この「三熊野」から名付けられたと考えています。まさに熊野地方の中心に位置する特別支援学校なのです。

なお、「熊野三山」及び「高野山」「吉野・大峯」の3つの霊場とそれらをつなぐ参詣道は、平成16年に文化遺産として世界遺産に登録され、世界中からお越しになる多くの方々に、自然と人間の共生について深い感銘を与えています。

熊野地方の自然は、平成23年台風12号によりもたらされた「紀伊半島大水害」のように、たいへん厳しいものがあります。しかし、温暖で豊かな日の光を受けて育つ大樹の雄々しさと豊かさがあります。また、古来より多くの人々を受け入れ続けた熊野の文化があります。本校は、教育目標として「生きぬく力・豊かな心」を掲げ、熊野の自然と文化のように、力強く、やさしく、柔軟に生きる力と心を持った児童生徒を育てたいと考えています。

また、本校は、熊野地方唯一の特別支援学校（和歌山県）として、障害のある児童生徒の指導・支援に携わるとともに、当地方において子供たちを支援する方々、関係機関の方々とともに学び協働して、支援を必要とする子供たちの豊かな発達を支援したいと考えています。

このホームページから本校の取組を知っていただき、雰囲気を感じ取っていただければ幸いです。また、実際にご見学いただくことも大歓迎です。お気軽に、ご連絡ください。



スクールバスに描かれた「3つの山」は、熊野三山であり、また、小・中・高の3つの学部を表しています。

和歌山県立みくまの支援学校  
校長 稲田進彦